

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #15 Top 10 Japanese Songs: Furusato/ Home Town

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

15

KANJI

1. ふるさと
2. 「うさぎ追いし かの山 こぶな釣りし かの川」という歌い出しの『ふるさと』。1914年（大正3年）、昔の音楽科に当たる教科書に掲載されて以来、現代でも広く愛唱されている曲です。
3. 実際に兎を追いかけたり、小鮒を釣ったりした経験がない人でも、じんと胸が熱くなるのは何故でしょう。それは、この曲に描かれる故郷のイメージが、日本人共通の原風景だからではないでしょうか。
4. 歌詞が文語（昔のことば）なので、意識して紹介しますね。
5. 子どもの頃に兎を追いかけたあの山や小鮒を釣ったあの川の景色が、大人になった今でも思い出され、故郷を忘れることはできないなあ。
6. 両親はどんな毎日を過ごしているだろうか。友だちは元気であるだろうか。雨が降っても風が吹いても、自然と故郷が思い出されるなあ。
7. 故郷を出るときに決意した目標を達成して、いつの日にか帰ろう。山は緑濃く、水は澄み渡る、あの美しい故郷に。
8. とこんな感じでしょうか。
9. 高野辰之（たかのたつゆき）作詞、岡野貞一（おかのていいち）作曲の『ふるさと』。賛美歌から着想を得ただけあって、ゆったりと心が洗われるような調べです。
10. この二人は『春の小川』『おぼろ月夜』『もみじ』など、その他にも日本人なら誰もが知っている歌を残しています。

KANA

CONT'D OVER

1. ふるさと
2. 「うさぎおいし かのやま こぶなつりし かのかわ」といううたいだしの『ふるさと』。せんきゅうひやくじゅうよねん（たいしょうさんねん）、むかしのおんがくかにあたるきょうかしよにけいさいされていらい、げんだいでもひろくあいしょうされているきよくです。
3. じっさいにうさぎをおいかけたり、こぶなをつったりしたけいけんがないひとでも、じんとむねがあつくなるのはなぜでしょう。それは、このきよくにえがかれるふるさととのイメージが、にほんじんきょうつうのげんふうけいだからではないでしょうか。
4. かしがぶんご（むかしのことば）なので、いやくしてしょうかいしますね。
5. こどものころにうさぎをおいかけたあのやまやこぶなをつったあのかわのけしきが、おとなになったいまでもおもいだされ、ふるさとをわすれることはできないなあ。
6. りょうしんはどんなまいにちをすごしているだろうか。ともだちはげんきでいるだろうか。あめがふってもかぜがふいても、しぜんとふるさとがおもいだされるなあ。
7. ふるさとをでるときにけつしたもくひょうをたっせいして、いつのひにかかえろう。やまはみどりこく、みずはすみわたる、あのうつくしいふるさとに。
8. とこんなかんじでしょうか。
9. たかのたつゆきさくし、おかのていいいちさっきよくの『ふるさと』。さんびかからちやくそうをえただけあって、ゆったりとところがあらわれるようなしらべです。
10. このふたりは『はるのおがわ』『おぼろつきよ』『もみじ』など、そのほかにもにほんじんならだれもが知っているうたをのこしています。

ROMANIZATION

CONT'D OVER

1. "Usagi oishi kano yama kobuna tsuri shi kano kawa" to iu utaidashi no "furusato". Sen kyū-hyaku jū yo-nen(taishō san-nen), mukashi no ongakuka ni ataru kyōkasho ni keisai sarete irai, gendai de mo hiroku aishō sarete iru kyoku desu.
2. Jissai ni usagi o oikaketari, kobuna o tsuttari shita keiken ga nai hito demo, jinto mune ga atsuku naru no wa naze deshō. Sore wa, kono kyoku ni egakareru kokyō no imēji ga, Nihonjin kyōtsū no genfūkei dakara de wa nai deshō ka.
3. Kashi ga bungo (mukashi no kotoba) na node, iyaku shite shōkai shimasu ne.
4. Kodomo no koro ni usagi o oikaketa ano yama ya kobuna o tsutta ano kawa no keshiki ga, otona ni natta ima demo omoidasare, kokyō o wasureru koto wa dekinai nā.
5. Ryōshin wa don'na mainichi o sugoshite iru darō ka. Tomodachi wa genki de iru darō ka. Ame ga futte mo kaze ga fuitemo, shizen to kokyō ga omoidasareru nā.
6. Kokyō o deru toki ni ketsui shita mokuhyō o tassei shite, itsu no hi ni ka kaerō. Yama wa midori koku, mizu wa sumiwataru, ano utsukushii kokyō ni...
7. To konna kanji deshō ka.
8. Takano Tatsuyuki sakushi, Okano Teiichi sakkyoku no "furusato". Sanbika kara chakusō o eta dake atte, yuttari to kokoro ga arawareru yō na shirabe desu.
9. Kono futari wa "haru no ogawa" "oboro zukiyo" "momiji" nado, sono hoka ni mo nihonjin nara dare mo ga shitte iru uta o nokoshite imasu.

ENGLISH

1. Hometown
2. "Chasing rabbits / the far-off mountain / fishing for miniature carp / the far-off river"—this is how the song "Hometown" begins. Ever since it was published in a textbook on old music in 1914 (Taisho 3), it is even now sung with affection far and wide.

CONT'D OVER

3. Why is it that even those who have never actually chased rabbits or been fishing for miniature carp feel so strongly moved by this song?
4. Perhaps it's because the imagery of the hometown depicted in the song is scenery familiar to all Japanese people.
5. The lyrics are written in literary language (old-fashioned words), so I'll give you a free translation.
6. The landscape of that mountain where I used to chase rabbits, and that river where I used to fish for miniature carp as a child; even now, as an adult, I recall it and cannot forget my hometown.
7. How are my parents spending their days? Are my friends doing well? Whenever the rain falls or the wind blows, it reminds me of my hometown.
8. Once I've achieved the goals I decided on when I left my hometown, one day I'll go home. To that beautiful hometown of mine, with its dark green mountains and perfectly clear waters.
9. It goes a little something like that, I think.
10. Tatsuyuki Takano wrote the lyrics to "Home Town," while Teiichi Okano composed the music. As might be expected, since the idea for the song came from a hymn, it's a melody that seems to cleanse the soul.
11. The two men also left behind songs such as "Spring Brook," "A Hazy Moonlit Night," and "Autumn."

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
賛美歌	さんびか	sanbika	hymn
文語	ぶんご	bungo	literary language

澄み渡る	すみわたる	sumiwataru	to be perfectly clear
じんと	じんと	jinto	heartrending, touching the heart
小鮒	こぶな	kobuna	small crucian carp
掲載する	けいさいする	keisai suru	to publish, to place on
着想を得る	ちやくそうをえる	chakusō o eru	to get an idea, to be inspired (to do)
意訳	いやく	iyaku	free translation, loose translation

SAMPLE SENTENCES

<p>賛美歌を歌ったことはありません。 <i>Sanbika o utatta koto ga arimasen.</i></p> <p>I have never sung a hymn.</p>	<p>この文章は文語で書かれていて、さっぱり分からない。 <i>Kono bunshō wa bungo de kakarete ite sappari wakaranai.</i></p> <p>I have no idea what this passage talks about because it is written in literary language.</p>
<p>今日は、空が澄み渡っている。 <i>Kyō wa sora ga sumiwatatte iru.</i></p> <p>The sky is perfectly clear today.</p>	<p>感動する映画を見て、じんと来てしまった。 <i>Kandō suru eiga o mite jinto kite shimatta.</i></p> <p>I saw a touching movie and felt moved.</p>
<p>小鮒がたくさん川にいる。 <i>Kobuna ga takusan kawa ni iru.</i></p> <p>There are a lot of small crucian carp in the river.</p>	<p>彼は、ブログに自分の写真を掲載した。 <i>Kare wa, burogu ni jibun no shashin o keisai shita.</i></p> <p>He put up his own photo on his blog.</p>

<p>友人の話から新しいビジネスの着想を得た。</p> <p><i>Yūjin no hanashi kara atarashii bijinesu no chakusō o eta.</i></p> <p>I got the idea for a new business from what my friend said.</p>	<p>意識されすぎると原文の意味と全く異なってしまうことがある。</p> <p><i>Iyaku saresugiru to genbun no imi to mattaku kotonatte shimau koto ga aru.</i></p> <p>When you translate too freely into other languages, the meaning of the original passage could change completely.</p>
---	---

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第4シーズン第15課 「ふるさと」

Yuichi: こんにちは ゆういちです。

Natsuko: なつこです。今回取り上げる歌は？

Yuichi: 「ふるさと」です。

Yuichi: 今回は、「ふるさと」という曲を紹介しましたが、これはJapanesePod101.com童謡のシリーズのレッスン1でも紹介していますね。

Natsuko: ああ、Japanese children's songs のシリーズなんですね。

Yuichi: はい。なので、是非聞いてみてください。

あの、ブログの中に「実際に兎を追いかけて、小鮒を釣ったりした経験がない人でも、じーんと胸が熱くなるのは何故でしょう。」とありましたが、確かに、僕は東京生まれ・東京育ちで、しかも、うさぎなんて追いかけたことはないんですけども、この曲をきくと、なつかしい感じがするというのは分かりますね。

Natsuko: 分かります。私も同じように、東京生まれ・東京育ちですけども、この「なつかしい感じ」って何なんでしょうね。たとえば、最近テーマパークとか博物館とかで1950年とか60年代ごろの町並みとか家の中とかが再現してあったりするじゃないですか。自分では実際そんな町並み見たことないのに、なんか「なつかしい・・・」とか感じることはありませんか？

Yuichi: ありますね。なんか、すごい不思議な感じなんですけども、なんかこう分かるところがありますね。

Natsuko: なんか自分が知ってた気になりますよね。

Yuichi: でも、それって、なんかドラマとかアニメの中でよく見てるからなのかなあとか。そういうのがあるから、懐かしいのかなと思うんですけども。

Natsuko: なるほど。そういえば、この「ふるさと」という曲に関して、とても印象的な出来事が最近あったんですよ。

Yuichi: なんですか？

Natsuko: 2011年3月11日起きた東日本大震災のその一ヵ月後に、テノール歌手の大変有名なプラシド・ドミンゴさんという方が、日本で被災者のためにコンサートを開いたんです。

Yuichi: あ、そうなんですか。

Natsuko: そのコンサートで、アンコールで選ばれた曲が実はこのふるさとだったんです。

Yuichi: あー、そうだったんですか。ということは、このドミンゴさんは、日本語で歌ったということですか？

Natsuko: そうなんですよ。ドミンゴさん、大変日本びいきの方だそうで、日本語の歌詞なので、お客さん知ってるから、ドミンゴさんと一緒に歌って、非常に感動的なステージだったそうなんです。

Yuichi: なるほど。それは良い話ですね。

Natsuko: そのときに、これは、わたしの個人的な意見なんですけれども、この「ふるさと」という歌は、何かつらいこととかがあったときに、日本人たちが心をひとつにして、思いをたくすようなそういう歌になってるのかもしれないなあと思ったんですよ。なんかこうふるさとを思う気持ちというのは、割合みんな共通して持っているから、そこに心を寄り添わせていくことができる。そういう歌なのかなと思ったんです。

Yuichi: なるほど。このみんなが共通して持っているというのが、ブログに書いてあった原風景ということですかね？

Natsuko: あ、そうですね。この「原風景」ってすごく難しい言葉ですよ。いや、あの、漢字が難しいとかじゃなくて、定義が難しいですんですよ。原風景とか心象風景とか、そういう言葉ありますよね。

Yuichi: ま、簡単に言うと、「心の中にいる風景」ということですね。

Natsuko: 日本人は「ふるさと」と聞くと、だいたい、この歌の歌詞のような、山や畑に囲まれた風景を思い浮かべる…と、そういうことをブログでは言っているんですね。

Yuichi: この「ふるさと」という言葉ですが、漢字で書くと「こきょう」と同じ漢字になりますよね。「ふるさと」も「こきょう」も同じような意味ですけども、微妙にニュアンスが違いますね。

Natsuko: 確かに。「こきょう」は単に「自分が生まれて育った土地」という意味です。でも、「ふるさと」の方が、なつかしい感じがしますね。

Yuichi: あ、分かります。はい。

Natsuko: 生まれて育った場所という意味だけじゃなくて、自分のルーツとか、心のよりどころとかいった意味も含まれると思います。もちろん、どちらを使っても同じ意味の場合もありますけど、ニュアンスがちょっと変わりますよね。

Yuichi: そうですね。

Natsuko: 例えば、こころのふるさととは言いますが、こころのこきょうとは言わないですもんね。

Yuichi:言わないですね。そういわれると、納得という感じですね。そう言えば他にも、こきょうの味というより、ふるさとの味と言った方が、しっくり来るんですけども。ふるさとという言葉のほうが、心理的に懐かしいというようなニュアンスが表せるんじゃないのかなと思います。

Natsuko:そうですね。

Yuichi:故郷とふるさとの違いって言いますと、ちょっと違う例としてですね。おかあさんとおふくろ、という言葉があるじゃないですか。

Natsuko:あー、はいはい。

Yuichi:一応まあ同じですよ、Motherということで。おかあさんの料理のことを言うときに、おかあさんの味というよりも、おふくろの味と言ったほうが、お母さんが作ってくれる料理への気持ちっていうのが伝わるんじゃないのかなと思ったんですけども。

Natsuko:懐かしい感じが出てきますよね。確かに、おかあさんの味とは言わないですけど、おふくろの味と言いますからね。

Yuichi:ちょっと話を戻しましょう。普通に「どこから来ましたか」と言うときに、「こきょうはどこですか?」や「ふるさとはどこですか?」というのはちょっとおかしいですよ。

Natsuko:そうですね。いきなりそうは聞かないですよ。

Yuichi:「出身地はどこですか」と言うのが普通だと思います。

Natsuko:そうですね。「こきょう」や「ふるさと」ではなくて、「出身地」という言葉を使った方がニュートラルな感じがしますからね。

Yuichi:はい。いきなり「ふるさとはどちらですか?」って聞いたら、ちょっとおかしいですね。

Natsuko:すごくプライベートなことを聞いている感じになっちゃいますよね。

Yuichi:はい。

Natsuko:童謡のレッスン1では、ふるさとの歌とあとビデオクリップも見る事ができますので、是非そちらのレッスンもチェックしておいてくださいね。では今回はこの辺で。

Yuichi:さようなら。